

S.G. Report

3月、SGコースの生徒49名を送り出し、4月から3年生42名、2年生32名、1年生は全員を対象にSGH指定5年目がスタートしました。3年SGコースで行ってきた課題研究の総まとめを、1年生全員と2年生のSGコースの生徒を対象にパワーポイントを使って発表しました。1、2年生や先生方から質疑をいただくことで課題解決に向かう態度を養い、聴講する生徒は質疑を行うことで自身の今後の課題研究に対してクリティカルに探究を進める基盤を作ることができました。

感想をご紹介します。

1年生への発表会

<日時> 平成30年 5月15日(火) 7限目

<場所> 1年各クラス、化学教室、生物教室、第1特別教室、第1パソコン室、第2ソコン室

<その他> 15会場を実施。事前に会場ごとの発表をまとめたポスターを配付し、事前学習をする。各会場では3人がそれぞれ7分以内で発表し、5分間の質疑を行う。

2年生への発表会

<日時> 平成30年 5月16日(水) 3・4限目

<会場> 覺士館、第1パソコン室、第2パソコン室、第2特別教室、生物教室

<その他> 事前に聴講する発表会場を選択する。会場ごとの発表をまとめたポスターを配付し、事前学習をする。各会場では5人(6人)がそれぞれ7分以内で発表し、7分間の質疑を行う。

氏名	研究テーマ
1 川野 太雅	原発事故の影響と脱原発
2 菊川 凌	格差のない社会
3 岸 亮太郎	世界はヒートアイランド
4 黒川 拓海	取り戻せ 宝の海
5 木場 大志	環境経営のプロフェッショナルに学ぶ
6 高須 聡	農業大国日本
7 永野 航陽	地球温暖化の真実と嘘
8 野田 啓太	物流インフラの整備がアフリカの経済を潤し成長を促進する
9 松崎 星嗣	人が音楽を選ぶことには理由がある
10 水元 天	デマ情報と集団心理
11 八十川 源太	オリンピックと日本の経済
12 吉住 颯斗	復興特別税は住宅再建支援となり得る
13 市村 桃子	環境破壊にブレーキを！～心理学の力～
14 犬塚 淑乃	P&R 自動車利用の削減



15 岩田 純奈	日本人の英語力向上のために早期英語教育は必要か
16 河野 由佳	地域活性化への一歩～持続可能な地域を目指す～
17 川本 渚	日本人と英語
18 工藤 みこと	日本人と水
19 島田 若奈	いじめの起きにくい集団づくりのために
20 竹内 志帆	時代が変える教育
21 田島 しずく	STOP ポイ捨て!!
22 出口 紗矢香	フードバンクが果たす役割と普及
23 中田 真生子	東京オリンピックの競技会場は新設すべきか
24 中山 有彩	環境と経済の関係について
25 二子石 夢佳	28年後の平和
26 古京 美奈	環境悪化は経済成長を妨げるのか
27 牧野 未佳	地震大国日本はネパールの模範となる
28 松崎 晴香	インターネットの普及がいじめを促進させる
29 渡邊 朋世	遊びとコミュニケーション
30 清田 大誠	墓石倒壊から見る熊本地震の震度分布の研究
31 後藤 一真	墓石倒壊から見る熊本地震の震度分布の研究
32 境 彬虎	墓石倒壊から見る熊本地震の震度分布の研究
33 城 直道	墓石倒壊から見る熊本地震の震度分布の研究
34 立野 倫太郎	墓石倒壊から見る熊本地震の震度分布の研究
35 神元 七海	墓石倒壊から見る熊本地震の震度分布の研究
36 深水 晴菜子	墓石倒壊から見る熊本地震の震度分布の研究
37 小佐井 あおい	墓石倒壊から見る熊本地震の震度分布の研究
38 杉山 慶樹	坪井川緑地と野鳥
39 井上 睦月	坪井川緑地の植生
40 清水 俊亮	坪井川緑地と野鳥
41 外田 陽都	坪井川緑地と野鳥
42 矢野 祝子	坪井川緑地の植生



【1年生】

- 最初の自分の考えが、研究していくうちに変わってしまうこともあるがそれは悪いことではないと分かりました。また、研究していくうちに浮上した疑問も、きちんと研究、考察することが大切だと分かりました。こんなのもうやっただのらうと思うような研究もたくさんあって驚きました。諦めずに粘り強く研究し続けた成果なのだろうと思いました。私も、そんな風に一生懸命にやれるテーマを見つけたいです。
- まだ自分が知らないところでいろいろなことが行われていることにとても驚きました。知らない知識をたくさん吸収して、自分のテーマに沿うものを探ることが大事だなと思いました。今のうちから周りにある出来事にしっかり興味を持って、自分もこのような充実した研究ができるように頑張っていきたいと思いました。また、新書などを読み、知識の幅を増やしていきたいです。

- 結果で終わらせるのではなくさらにそこから考察し、より深く調べているのが印象的でした。また、パワーポイントで表や図を使うことで、難しいこともイメージしやすくなりました。内容も大事ですが、発表のやり方も工夫していきたいです。当たり前のように、発表を止まらず、スムーズに進めていて、内容がよく入ってきました。正直、プリントを見ただけでは、難しく感じていましたが、パワーポイントで説明を補足することで、とても分かりやすくなりました。その結果説得力も増しました。私もレポートを作るときは、より深く、そして分かりやすく意識していきたいです。
- 私は今回の発表を通して、1つ1つの情報を他人事だと思わず、しっかりと自分自身の考えを持つことが大事なのだと思います。それによって自分のこれからにつなげられたりするし、新しい発見が生まれてくるのではないかと感じました。SGR の発表では1つの問題に対して詳しく調べたり、仮説をたてたりと、自分が普段しないことばかりで聞いていてとても興味深かったです。また、内容だけでなく、話し方、聞き手とのコミュニケーションも大事だなと感じました。
- 一つの研究テーマについてたくさんの情報を集めることで、より自分の考えが深まり、相手にも理解してもらえることが分かった。問いかけをして相手に興味を持たせることもよいなあと感じた。私たちと2歳しか変わらないのに研究のテーマにそって情報をまとめてすごいと感じた。ハキハキと人前で話せる人になりたい。

【2年SG生徒】

- 自分の研究に一貫性を持たせて、プレゼンで使う写真もイメージをもたせやすいように、または、自分のスピーチが進めやすいような写真を選ぶことも、全体的な完成度を上げることになると思った。常に広い視野で物事を視ることを意識していきたい。
- 全体的にほとんどの先輩が顔を上げて発表していたので研究内容をしっかり把握しているということと、たとえ結果が仮説とは違っても内容を違う方法で活用する力があると感じました。先輩方の研究を見ることができたのは、貴重な経験でした。
- 全員がハキハキしていて惹きつけられました。私たちも堂々と発表できるように、自分の研究に自信が持てるくらい努力しようと思いました。先輩方の発表で様々なテーマへ興味が広がりました。ありがとうございました。
- 先輩方の研究は問題の解決策、その問題点が明確にされており見習うべき点が多くあった。視野を広くし、隅々まで行き届く研究を目指したいと思った。色々な問題に対し、アンケートをとったりフィールドワークに行ったりするなどし、傾向や打開策を考える研究であり、自分にとって衝撃的だった。
- 一年かけて深く研究してあったのですごく納得できたと、面白かった。また鋭い質問も考えて質問するのも面白かったし、それにさっと対応している先輩方がすごかった。丁寧に準備しているのだと思った。来年は自分が発表する立場になるので深くまで掘り下げて研究して、一年生に面白いと思ってもらえるような研究にしたい。

【3年生 発表者】

- 小佐井 あおい
今回私は、一年生に対して二箇所、二年生に対して一箇所ずつプレゼンを行なった。一番初めの一年生に対する発表ではとても緊張して何回も言い直したり、原稿を見ながら話したりして聞きづらいものであったと思う。回数を重ねるにつれ、前回の反省を生かし聞き手を見て途中で説明を入れることを心がけた。最後の発表では聞き手に問いかけたり、考えてもらったり出来たのは、よかった。後輩からの感想に発表の態度などについて書かれていたのはとても



うれしかった。しかし理系のグループ研究であったため、内容がかなり専門的になってしまい、一・二年生、特にまだ物理未学習の一年生にとっては理解するのが難しかったと思う。もっと研究の内容を簡易化してより理解してもらえ説明にすべきだったと思う。他の三年生の発表も聞けてとても勉強になった。特に文系の人の発表は視点が理系の私とはまた違って面白かった。あらゆる立場から質問をしたり質問をされたりして、お互いに理解が深まったと思う。



- 古京 美奈
聞き手に楽しんで、興味を持ってもらえるようなプレゼンを心がけました。具体的には、スライドは図や絵を多く使用し、最終的に身近な問題に帰結するだけでなく、身近で想像しやすい話題から発展させて話すことで、関心を持たせるようにしました。その結果、全員の視線を前に向かせることができましたし、経済という難しそうなテーマに嫌悪感を抱かず聞いてもらうことができました。しかし、その反面、やはりグラフや表などの、論理的な根拠となる資料が不足してしまっていました。わかりやすく、かつ説得力のあるプレゼンというものの難しさを痛感しました。また、内容を完璧に頭に入れておくことはもちろん、プラスαとして話題に関連のある豆知識や自身の体験談、具体例などの知識を豊富に持つと、突発的な質問への対応もでき、聞き手を飽きさせない工夫にもつながるだろう、とも感じました。また今回のような時間が決められているプレゼンの場合には、そういったさまざまな知識の引き出しは時間の調節弁としての機能も果たしてくれるはずです。
- 黒川 拓海
ステージ上では緊張こそしたものの、身振り手振りを交えて落ち着いて発表ができたと思う。もう少し原稿を暗記して内容を頭に入れ、「自分の言葉」として伝えられていたらもっとより良いものになっていただろう。ポスターを用いた発表では日本語だと言うこともあってか堂々と発表できた。だがすこし早口になってしまった。それまでいくつかの発表会に参加し、そのたびに修正してきたことを出せたと思うので、場数を踏んできておいてよかったと感じた。
- 出口 紗矢香
今までの発表と比べて、原稿等をほとんど見ることなく、比較的落ち着いて発表をすることができた。聞く人もまっすぐな視線を向け、とても真剣に聞いてくれたので、発表していて楽しかった。研究してきたことを伝えるにあたって、言いたいことをまとめ上げる力の不足に伴い、スライドを十分に表示する時間を確保できなかった。また、スライドの内容は最大限大きくしていたつもりであったが、内容を詰めすぎているという事実とともに、人数が多く、遠くから見ている人がいることを考慮できていなかった。
- 木場 大志
内容面については特に目立った指摘は無く、共感してくれる生徒も多かったが、プレゼンの面では、グラフが分かりづらかったり、言葉を濁してしまったりと、上手く内容を表現することができず、残念な結果に終ることとなった。今後は人に分かりやすく伝えるためにも、語彙を増やし表現力を養い、相手がすんなりと意見を理解できるように努めていきたい。
- 竹内 志帆
プレゼンをする際に自分のアンケート結果を基に作ったグラフの説明があまりはっきりとしない結果が出ていたので少しごまかしてしまったのが反省点だと感じている。しかし、初めてポスターセッションをしたときに比べ時間配分や発表時の工夫が出来るようになってきたのが今回の発表を通しての成長できた点だと思う。また、1・2年生に評価・質問をもらうことでより考えが深められたので感謝したい。

